

正しい入試情報と

それを活かす

受験指導が重要

学習環境が左右する

富士学院 学院長
坂本 友寛

難易度は高止まりながら、
合格チャンスは若干拡大

近年は、入試の倍率が年々上昇

続いていましたが、景気の回復と18歳人口の減少に伴い、昨年あたりからは、全体的に少し落ちつきを取り戻しています。2018年度は、18歳人口が前年度より1万8000人程減少し、国公立大の医学部志願者も2000人近く減少しています。

校しか出席できないため、志願者の増減をほぼ正確に表します。つまり、私立も含めた医学部志願者の総数は、若干減少傾向にあります。全体の志願者が減っているという意味では、医学部に合格するチャンスは、これまでと比べ、若干広がりつつあると考えていいでしょう。

就職試験でもある。

定的に違う点があります。それは、

今医学部教育の実情なのです。だからこそ、医学部入試では、直接や小論文を通して、本当に医師になりたいのか、ハードな勉強を続けられるのかを、これまで以上に強く見極めようという傾向が顕著になっています。もちろん、高い学力も要求されますので、医学部を目指す受験生は、得意科目を更に伸ばし、できるだけ苦手科目は作らないように学力を伸ばしつつ、医師という職業に必要な資質を磨いていくという心構えを持



つことが、必要不可欠なのです。

大学毎で異なる出題傾向
個々に応じた出願戦略が必要

医学部受験の準備で、もう一つ重要なのが出願先の選択です。医学部の入試問題は、出題の範囲や形式、問題の難易度や出題の傾向が大学毎に違い、また、国公立大ではセンター試験と二次試験の配点比率も大学によって異なります。

また、合否の判断基準も大学で異なり、面接試験や小論文試験の評価に関しても、成績を点数化する大学や、A・B・C・Dなどの段階評価を

自身の現状を正しく分析し、自身と大学との相性を踏まえた正しい出願先の選定です。

とくに国公立大は、基本的には前期と後期の2回しか受験チャンスがないため、どの大学を受験するのかで合否が大きく分かれます。一般的にはセンター試験の結果をもとに出願先を決めることになりますが、学力の高い受験生でも出願先を間違えると不合格になり、逆にそこまでの学力が無くても出願先さえ間違わなければ、合格の可能性も出できます。単純な学力偏差値で出願先を決められないとい

する大学があり、例えは点数化の大学では面接・小論文の結果で逆転が起こり、段階評価する大学では、筆記試験で高い得点を取つていても落されるなどの結果を生むことになります。また、面接試験も個人面接や集団面接、グループ討論など大学によつて形式が異なるので、合格を勝ちとるために大学毎の正しい入試情報を収集し、その大学に応じた対策をとつていくことが必要となります。

必要な学習環境とは

それではここで、医学部合格を勝ち取るために必要な学習環境についてお話ししたいと思います。まず一つ目は、医学部受験に精通した講師陣の存在です。次に必要なのが、医学部受験の様々な情報やデータを含む大学毎の正しい入試情報が収集できる環境。そしてここが最も大切な部分ですが、そのデータや情報を受け取る環境です。せっかくの情報があつても、その情報が

一方、私立大の場合は、日程の都合がつけば、複数の大学を受験することができますので、その分合格のチャンスは広がることになります。しかし、当然ながら、闇雲に受験しても良い結果を得るとは難しく、受験日程の組み方を含め、出願先の選定とその大学の対策をどう取っていくのかが、否を分けることになってしまいます。

医学部に進学することは、すなわち医師になることであり、医学部の入学試験は、就職試験も兼ねているということです。そのため、現在の医学部入試では、高い学力が求められるだけでなく、医師になるという自覚や覚悟、医学部6年間のカリキュラムをきちんと学習していけるだけの勉学姿勢があるかなどを測る総合的な試験になっています。学力だけあっても、合格できないのが医学部入試の最大の特色です。

現在、日本の全ての医学部は、医学教育を国際標準に合わせるために、大幅なカリキュラム改革に取り組んでいます。最大の変化は、臨床実習の期間が従来の約1年から約2年間に伸びることです。その分、基礎医学や臨床医学などの講義時間が大幅に減りますが、医療の進歩に伴って、覚えるべき知識はどんどん増えていくのが現状です。教員にも全てを教える時間

で予習・復習など、とにかく勉強する姿勢がないと授業についていくことが難しくなります。これが、

医学部受験 富士学院

2019年春、大阪校開校！

東京: ☎ 0120-01-9179
名古屋: ☎ 0120-9816-33
岡山: ☎ 0120-9179-00
小倉: ☎ 0120-08-9179
福岡: ☎ 0120-5251-22
鹿児島: ☎ 0120-66-9179

富士学院

来春、大阪校開校予定
学習環境が合格実績の秘訣

富士学院



DATA

★国公立大24人、私立大220人(防衛医科大1人含む)

○中高生、高卒生

寮・専用食堂完備

￥[高卒生] 入学金21万6000円、国公立医学部コース108万円、

私立医学部コース324万円、国公立・私立併願コース前期172万8000円

⑤東京、名古屋、岡山、小倉、福岡、鹿児島 「東京校」東京都千代田区神田淡路町2-23 菅山ビル2F・3F ⑥0120-01-9179 「福岡校」福岡市博多区博多駅南3-2-1 ⑦0120-5251-22

東京校を始め全国に直営の6校舎があり、全校舎に専用寮と食堂を完備。高生は選抜制の国公立医学部コースのほか、無選抜の私立医学部コース、国公立・私立併願コースを設置。中高生は個人指導が中心です。東大にも強く、東大理IIIにも合格者が輩出。学力だけでは合格が難しくなつてきている現状を踏まえ、どうすれば合格できるかを、生徒を交えたチームで考え、生徒の現状や課題点を講師・職員が共有し、具体的な指導を行っていきます」
(坂本友寛学院長)